

# 使用後の手入れと保管

## ①作業が終わったら

1. 薬液口キャップをゆるめタンク～レバーコックの圧力を抜いてください。
2. タンク内を十分に洗浄し、更に清水を入れ1分間以上噴霧しタンク内の水を払ってください。
3. 定期的に、ニギリ部ストレーナを清水で洗浄してください。

※洗浄を怠った場合、ストレーナやノズルが目詰まりを起こす場合があります。

- ⚠️ ※薬液や空気が噴き出す恐れがありますので、ポンプや接続部を外す前に薬液口キャップをゆるめタンク～レバーコックの圧力を抜いてください。
- ⚠️ ※余った薬液及び機械の洗浄水は、河川、水源池、下水等に流入して被害を及ぼさないよう、薬害のない方法で処分してください。
- ⚠️ ※前回使用した薬液がタンク、ホース、ノズル等の内部に残っていると薬害を起こす危険性があります。使用した後は、残っている薬液を十分に洗い流してください。

## ②保管

**保管は屋内の直射日光が当たらず風通しの良い、子供の手の届かない場所にしてください。**

※プラスチック部品は、直射日光に長期間さらされると、著しく強度が低下する場合があります。また注意表示ラベルも変色したり、はげやすくなったりしますので保管には充分注意してください。

# 故障と修理方法

内容	原因	処置
ポンプの動きが悪い	●Oリング②の油切れ	○注油する
ハンドル操作が重い、またはハンドルが押し戻される	●逆止弁部のゴミ詰まり、または劣化、老化	○掃除する、または新品と交換する
圧力が上がらない、または空気の漏れる音がある	●ネジ部、薬液口より空気が漏れる ●Oリング④の油切れまたは劣化、老化 ●Oリング②の劣化、老化 ●Oリング②の油切れ	○各ネジ部、薬液口キャップを締め付ける ○注油する、または新品と交換する ○新品と交換する ○注油する
液の出が悪い、または噴霧状態が悪い	●加圧不足 ●ネジ部より空気が漏れる ●ノズルへのゴミの付着 ●ニギリ部ストレーナ⑩の目詰まり	○加圧する ○各ネジ部を締め付ける ○掃除する ○掃除する
液が止まらない	●レバーコック⑥のゴミ詰まり	○掃除する
接続部から薬液が漏れる	●ネジのゆるみ ●接続部のパッキンの劣化、老化	○各接続部のネジをしめつける ○パッキンを新品と交換する

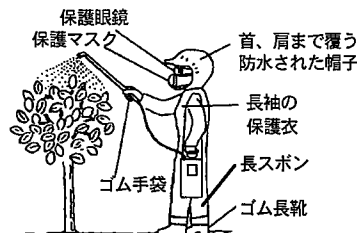
修理を行う場合は、事前に薬液口キャップをゆるめ、タンク内の圧力を抜いてください。

⚠️ また、ノズルキャップの掃除を行う際は、顔面に薬液がかかる恐れがありますので、必ずレバーコックを停止の状態としてから行ってください。

※Oリングを交換する際は、必ずOリング全面に注油してください。  
※注油にはエンジン油、またはギヤ油を使用してください。  
※上記処置を行っても直らない場合、または上記以外の症状の場合は販売店にご相談ください。

## 安全作業の服装

・農薬の吸入や付着による事故を防ぐため、帽子、保護眼鏡、保護マスク、ゴム手袋、長袖の保護衣、長ズボン、ゴム長靴を着用し、皮膚が露出せず危険のない服装で作業を行ってください。



## 仕様

	ホルモン噴霧機
本体寸法	315×120 mm (高さ×タンク直径)
最大液容量	2.0 ℓ
タンク容量	2.1 ℓ
ノズルパイプ長さ	198mm
ノズル長さ (2種類を付属)	100mm 200mm
規定圧力	0.3 MPa
吐出ホース長さ	0.9m
主要部材質	タンク：黄銅 ポンプ部：黄銅 その他：ステンレス、黄銅、ポリプロピレン

# 全自動型ホルモン噴霧機 取扱説明書

ASB 株式会社 麻場

〒381-8530 長野県長野市北長池 1443-2

☎026(24)1317 (代)

URL: <http://www.asaba-mfg.com>

このたびは本製品をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。  
この取扱説明書には安全に使用していただくための要点を記してありますので、  
**ご使用前に必ずよくお読みになり正しくご使用ください。**  
**お読みになった後は、いつでも読める場所に保管してください。**  
また、本書を汚損したり紛失した場合はお買い上げの販売店にご注文  
いただき大切に保管してください。

本書に記載した ⚠️ の表示のある注意事項や機械に貼られた  
⚠️ の表示のあるラベルは、人身事故等の危険が考えられる  
重要な項目です。よくお読みになり必ずお守りください。  
なお、⚠️ の表示のあるラベルが汚損したり、はがれた場合は  
お買い上げの販売店にご注文いただき必ず所定の位置にお貼  
りください。

## 用途

- ・野菜、果実、草花等へのホルモン剤の散布に
- ・園芸用・観賞用植物への散水に

# 安全のために必ずお守りください

## 作業の前に

- ・次に該当する方は、この製品を使用しないでください。
  - ・酒気をおびた者
  - ・過労、病気、薬物（農薬を含む）の影響その他の理由により、正常な防除作業ができない者
  - ・妊娠中の者
  - ・満15歳未満の者
  - ・負傷中の者、生理中の女性等農薬による影響を受けやすい者
- ・作業前に各ネジ部にゆるみがないこと、ホース、肩掛バンドに亀裂、摩耗、破損のないこと等、各部に異常のないことを確認してください。
- ・安全性を損なう恐れがありますので、改造しないでください。
- ・この製品を他人に貸与または譲渡する場合は必ず取扱説明書を添付し、よく読んでから使用するよう指導してください。

## 農薬の取り扱い

- ・農園芸用薬品の散布、散水用途以外には使用しないでください。（ハエや蚊等の殺虫剤、下水道の消毒剤等の環境衛生用の薬品は使用できません。）
- ・やけど、火災の恐れがありますので強酸性の薬品・塗料・シンナー・ガソリン・灯油・ベンジン等は絶対に使用しないでください。
- ・調合が適切でない薬液は、作物を傷めるだけでなく人体にも有害になる恐れがあります。薬液の調合の際は、農薬の使用上の注意をよく読み、正しく希釈してから使用してください。
- ・安全性を損なう恐れがありますので、40℃以上の温水、発熱性の薬品は使用しないでください。
- ・農薬は必ず専用の保管箱に鍵をかけて保管し、絶対に食品や食器とは一緒に保管しないでください。
- ・誤使用、誤飲の危険がありますので、農薬は絶対に別の容器に移し替えないでください。
- ・農薬の空容器は、散布液調合時に必ずよく洗い、薬品メーカーの指示に従って、その都度正しく処分してください。空容器を洗った水は薬害のない方法で処分してください。

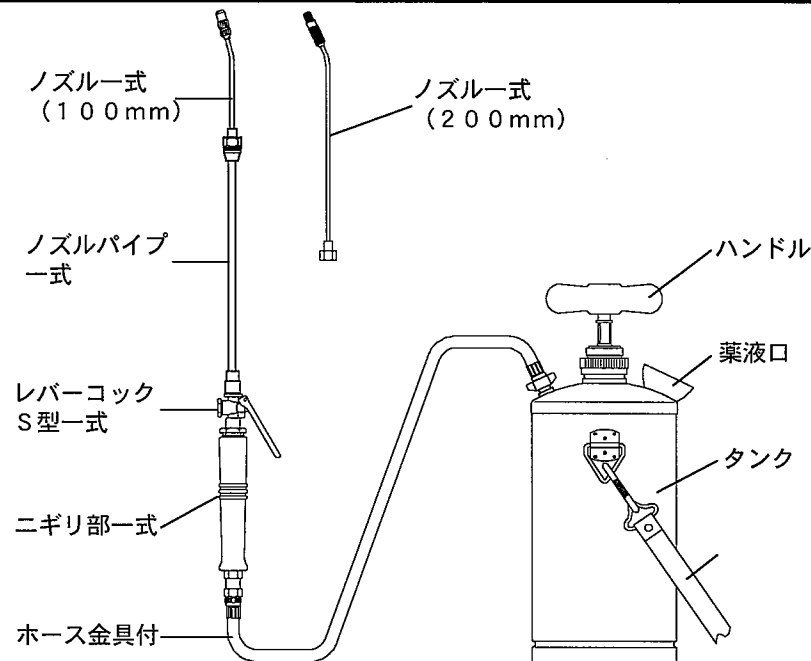
## 作業中

- ・農薬の吸入や付着による事故を防ぐため、帽子、保護眼鏡、保護マスク、ゴム手袋、長袖の保護衣、長ズボン、ゴム長靴を着用し、皮膚が露出せず危険のない服装で作業を行ってください。
- ・水道、河川、池、沼などを汚染しないように、また、人体や散布対象物以外のものにかからないよう風や周囲の状況に充分注意して作業を行ってください。
- ・作業中、作業後にめまい、頭痛を生じ、または気分が少しでも悪くなった場合は、直ちに作業を中止し、医師の診察を受けてください。
- ・噴霧しない状態で必要以上に加圧しないでください。
- ・加圧した状態で長時間放置しないでください。
- ・ハウス内では換気を行いながら作業してください。
- ・作業中にノズル部を清掃する場合は、顔面等に薬液がかかる恐れがありますので、必ずレバーコックを停止状態としてから行ってください。

## 作業後と保管

- ・タンク～レバーコックが加圧された状態でポンプや接続部を取り外すと薬液が噴き出す恐れがあります。ポンプや接続部を外す前に薬液口キャップをゆるめ、タンク～レバーコックの圧力を抜いてください。
- ・作業後は手足はもちろん、全身を石鹸でよく洗うとともに目の水洗いとうがいをしてください。また、作業期間中は衣服を毎日取り替えてください。
- ・余った薬液及び機械の洗浄水は、河川、水源池、池、沼、下水等に流入して被害を及ぼさないよう、薬害のない方法で処分してください。
- ・使用後は充分洗浄し、屋内の直射日光が当たらず風通しの良い、子供の手の届かない場所に保管してください。
- ・前回使用した薬液がタンク、ホース、ノズル等の内部に残っていると薬害を起こす危険性があります。使用した後は残っている薬液を十分に洗い流してください。

# 各部の名称



# 使用前の準備

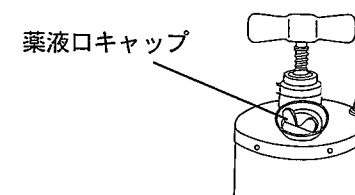
分解図を参照して本体に、ホース、ニギリ、レバーコック、ノズルをしっかりとねじ込み組み立てます。

- ⚠️ ※作業前に接続部のパッキンに脱落のないこと、各ネジ部にゆるみがないこと、ホース、肩掛バンドに亀裂、摩耗、破損のないこと等、各部に異常のないことを確認してください。
- ⚠️ ※安全性を損なう恐れがありますので、付属のホース、レバーコック、ノズルパイプ、ノズルは他の用途（動力噴霧機での使用、コンプレッサでの使用等）には使用しないでください。
- ⚠️ ※破損の恐れがありますのでホースを、無理にねじったり、引っ張ったり、曲げたりしないでください。

# 使用方法

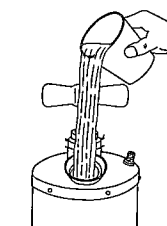
## ①薬液の入れ方

- 薬液口キャップを取り外します  
※薬液を入れる前にコックは必ず停止の状態にしてください。



- 調合した薬液をタンクに入れます

- ⚠️ ※薬液は他の容器で調合、計量してから入れてください。
- ⚠️ ※薬液は規定量（2ℓ）以上入れないでください。  
規定量以上いれると、薬液口から溢れてしまいます。  
※薬液タンクにゴミが入らないよう、薬液の調合には必ず水道水を使用してください。
- ⚠️ ※安全性を損なう恐れがありますので、40℃以上の温水、発熱性の薬品は使用しないでください。
- ⚠️ ※土壌消毒剤・土壌燻蒸剤は、故障の原因となりますので、使用しないでください。



- 薬液口キャップを取り付けます

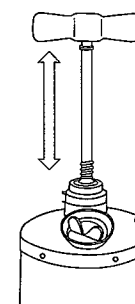
- ・薬液口キャップは、空気が漏れないよう充分締め付けてください。締め付け不足は空気漏れや圧力が上がらない原因になります。

## ②加圧します

ハンドルを上下させ加圧します。

- ※使用中、噴霧力が低下したら追加加圧してください。
- ⚠️ ※加圧回数は液量に応じて、下表の値を厳守してください。
- ⚠️ ※必要以上に加圧しないでください。

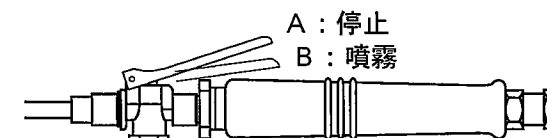
適正な加圧回数	液量	1ℓ	2ℓ	作業中の追加加圧
	回数	80回	30回	



## ③噴霧します

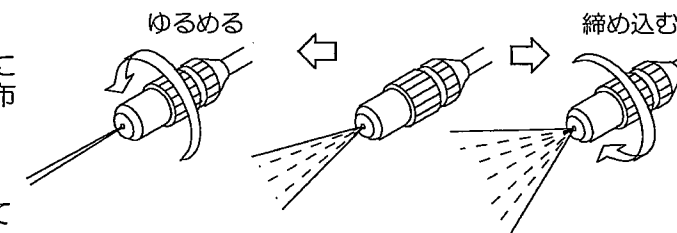
- レバーコックの操作

- Aの位置が停止です。
- レバーを押し、Bの位置にすると噴霧し、レバーを放すとAの位置に戻り、噴霧は停止します。
- ⚠️ ※不用意にレバーコックが噴霧の状態にならないよう、取り扱いには充分注意してください。
- ※ノズル内に空気があるとレバーコックの効きが悪いので、散布開始の前にレバーを押し、空気を追い出してください。



- 噴霧の調節（ノズル式100mm）

ノズルキャップを締め込むと細かい霧で広い角度に散布し、ゆるめると荒い霧で直射状に遠くまで散布できます。



- ノズル

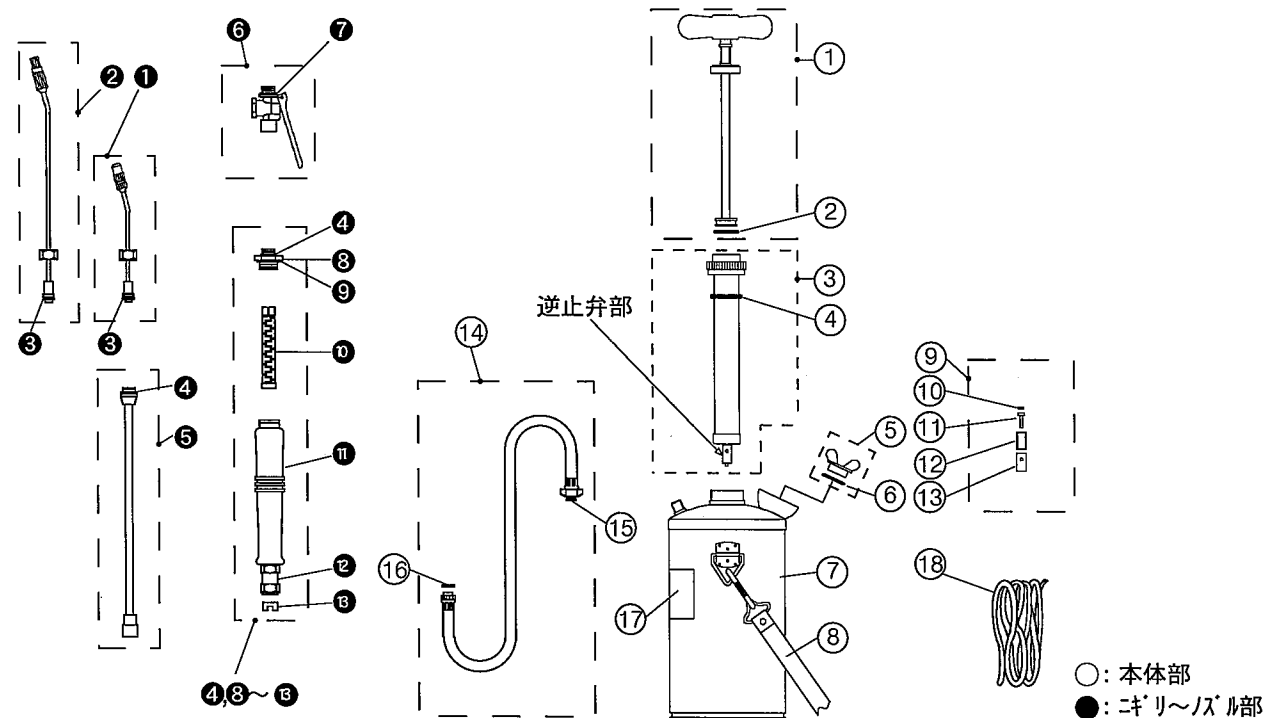
ノズルは長さ100mmと200mmの2種類が付属しています。用途に応じて適宜使用してください。

- 腰ヒモ

作業中にタンクが作物の葉や枝に触れ、傷めるのを防止するために腰ヒモが付属されています。必要に応じて、本機を肩に掛けた後タンクが体に密着するように腰ヒモで固定してください。

- ⚠️ ※レバーコックを吐出の状態にするときは周囲の状況を充分確認してください。
- ⚠️ ※作業中にめまい、頭痛を生じ、または気分が少しでも悪くなった場合には直ちに作業を中止し、医師の診察を受けてください。
- ⚠️ ※タンク～レバーコックが加圧された状態で接続部を取り外すと薬液が噴き出す恐れがあります。接続部を外す前に薬液口キャップをゆるめタンク～レバーコックの圧力を抜いてください。
- ⚠️ ※コックを停止の状態が必要以上に加圧しないでください。
- ⚠️ ※加圧した状態で長時間放置しないでください。
- ⚠️ ※ハウス内では換気を行いながら作業してください。

# 分解図



## ホルモン噴霧機用部品

記号	名称	記号	名称	記号	名称	記号	名称
	**本体部**	⑪	弁虫		**ニギリノズル部**	⑪	ニギリ
①	ピストン一式	⑫	弁スプリング	①	ノズル式(100mm)	⑫	ヨリモドシ
②	Oリング P-20	⑬	弁サック	②	ノズル式(200mm)	⑬	スリワリ付ナット
③	シリンダー式	⑭	ホース金具付	③	Oリング P-5	⑭⑮⑯	握り一式
④	Oリング P-26	⑮	パッキン 8.5×5×1.5	④	パッキン 11.5×8×1.5		
⑤	薬液口キャップ一式	⑯	パッキン 11.5×8×1.5	⑤	ノズルパイプ一式		
⑥	パッキン 25×18×2	⑰	ネーム・注意ラベル	⑥	レバーコック S型一式		
⑦	タンク	⑱	腰ひも	⑦	パッキン 8.5×5×1.5		
⑧	肩掛バンド			⑧	ニップル		
⑨	逆止弁部一式			⑨	パッキン 17.5×13×1.5		
⑩	弁パッキン			⑩	ストレーナ		

※ネーム・注意ラベルが見つらなくなったり、はげたりした場合は必ず新品と交換してください。